

三菱UFJ MV20 / MV40 / MV80 主要投資対象である投資信託証券の運用会社の変更について

追加型投信 / 内外 / 資産複合

主要投資対象である投資信託証券の運用会社の変更について

弊社ファンド「三菱UFJ MV20 / MV40 / MV80」(当初設定日:2000年12月20日、追加型証券投資信託)の主要投資対象である投資信託を運用しているラッセル・インベストメント株式会社から、「ラッセル 日本株式マザーファンド」(「ラッセル 日本株式ファンド (適格機関投資家限定)」の主要投資対象)において、2009年7月31日付で運用会社構成を一部変更し、これまでグロース(成長)型運用を担当しておりましたピクテ投信投資顧問株式会社に替えて、ベイビュー・アセット・マネジメント株式会社(以下「ベイビュー」)を採用し、また、バリュー(割安)型運用を担当しておりましたT&Dアセットマネジメント株式会社への運用委託を終了した上で、目標配分割合を変更するとの連絡がありました。

この変更により、「ラッセル 日本株式マザーファンド」は今後、グロース型2社、バリュー型2社、マーケット・オリエンテッド型1社の計5社体制で運用を行ってまいります。

以下では、今回の運用会社構成変更の目的、およびベイビューの概要につきまして、ご説明いたします。

ラッセル・インベストメント株式会社からの連絡内容

運用会社構成変更の目的

今回の運用会社の変更は、グロース運用部分をより高く評価する運用会社に入れ替え、また、バリュー運用部分では評価の高い運用会社に集約することにより、さらに高く安定した運用成果を上げることを目指すものです。同時に、各運用会社への目標配分割合を調整することで、ファンド全体のバランスを保ちます。

ベイビューはラッセルの運用会社調査チームが高い評価を与えている運用会社です。企業業績や財務内容などのファンダメンタルズ分析に基づいたボトムアップと投資テーマを的確に捉えたトップダウンを巧みに融合した投資プロセスが特徴です。次世代をリードする企業の可能性、同業他社との競争優位性とその持続期間、業績衰退期における収益回復の可能性などを重視して銘柄を選択します。担当のポートフォリオ・マネージャーは、競合他社や取引先などのバリューチェーン(事業活動の各プロセスで生み出される付加価値)を分析する力が高く、産業や企業のダイナミズムの変化を先取りし、企業の成長性を見極める能力を備えています。

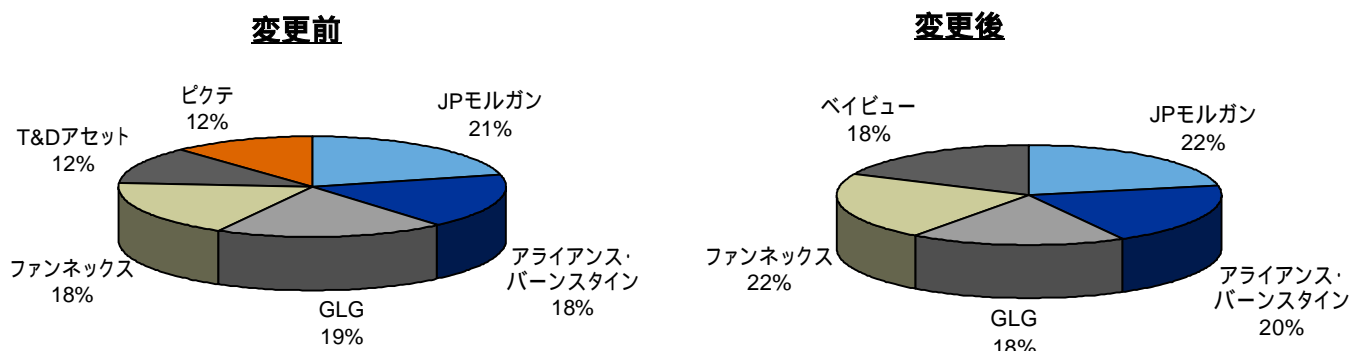
ベイビューのポートフォリオは既に採用している他の運用会社と異なるリターン傾向を持ち、超過収益の源泉において高い補完性が期待できます。今回の変更により、当ファンド全体のリスク特性に大きな影響を与えることなく、投資プロセスの分散効果を高めることで、より高く安定した超過収益の獲得を目指します。

ベイビューの概要

ベイビューは1998年に設立され、東京を拠点とする独立系のブティック型(比較的小規模で特定の分野に特化した)運用会社です。少数精鋭による高い専門性などを経営理念として掲げ、今後収益成長が見込める銘柄を発掘する、グロース(成長)型運用に強みを持ちます。運用資産総額は約1,851億円となっています(2009年3月末現在)。

三菱UFJ MV20 / MV40 / MV80 主要投資対象である投資信託証券の運用会社の変更について

各運用会社への目標資産配分割合 (ラッセル 日本株式マザーファンド)



今回の運用会社構成の変更は、ラッセル・インベストメントグループの継続的な運用会社調査の結果に基づくもので、マルチ・マネージャー・ファンドならではの特征の一つです。
 ラッセルのマルチ・マネージャー・ファンドでは、皆様の投資目標の実現を図るため、今後も状況の変化等に応じて、適切な運用会社構成の変更等を実施してまいります。

以上

表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。

7ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

三菱UFJ MV20 / MV40 / MV80
三菱UFJ MV20 / MV40 / MV80の主要投資対象である投資信託証券の運用会社リスト

三菱UFJ MV20 / MV40 / MV80の主要投資対象である投資信託証券を運用しているラッセル・インベストメント株式会社からのデータ・コメントを原則としてそのまま掲載しています。

ラッセル 日本株式ファンド (適格機関投資家限定)

ラッセル 日本株式ファンド (適格機関投資家限定)の運用はファミリーファンド方式で行い、下記のマザーファンドを主要投資対象とします。

<ラッセル 日本株式マザーファンド>

ラッセル 日本株式マザーファンドは、国内の金融商品取引所に上場されている株式を主要投資対象とし、安定的にベンチマーク(TOPIX(配当込み))を上回ることを目標として運用を行います。複数の運用スタイルと運用会社を採用することにより、ファンド全体でリスクをコントロールしながら、超過収益の獲得を目指します。グロース型、バリュート型、マーケット・オリエンテッド型などの運用スタイルだけでなく、超過収益の源泉や運用プロセスの分散を図りつつ、超過収益への貢献度が高い銘柄選択において、各運用会社の特性を最大に活かせるようファンドを運用します。

グロース型
JPモルガン・アセット・マネジメント(日本)

JPモルガンが当ファンド委託部分の運用に用いる投資アプローチは、利益成長性はあるが市場がまだ認識していない証券に投資することにより超過収益を追及します。「Growth at a Reasonable Price(成長株式を適正なプレミアム水準で投資する)」という基本方針の下、運用担当者による会社訪問を基本とする徹底したボトムアップ・アプローチによる調査・分析を行います。

グロース型
ベイビュー・アセット・マネジメント(日本)

ベイビューは、企業業績や財務内容などのファンダメンタルズ分析に基づいたボトムアップと投資テーマを的確に捉えたトップダウンを巧みに融合した投資プロセスが特徴です。次世代をリードする企業の可能性、同業他社との競争優位性とその持続期間、業績衰退期における収益回復の可能性などを重視して銘柄を選択します。

バリュート型
GLGパートナーズ・インターナショナル(英国)

GLGは、バリュート型運用の一手法である逆張り投資を投資方針としており、企業の本来価値に注目して割安に放置されている銘柄を発掘します。特に低PBR(株価純資産倍率)、高配当銘柄に着目することになります。ボトムアップの銘柄選択に重点をおくため、セクター配分は銘柄選択の結果であり、インデックスを意識したものにはなっていません。複数のリスクモデルはポートフォリオが意図しないところでリスクを取っていないかを確認するために使用されます。

バリュート型
アライアンス・バーンスタイン(日本、香港)

アライアンスのバリュート株式運用は、綿密でかつ質の高い企業調査とクオンツ・モデルを併用し、現在の株価と本質的な企業価値の差を捉えることにより超過収益の獲得を目指すというものです。クオンツ・モデルを用いた業種内およびグローバル・セクター間での相対バリュートーション(投資価値)比較により銘柄を選別、更にアナリストが詳細な調査に基づき長期の収益およびパフォーマンスを予想、割安に放置されている銘柄を見出します。

マーケット・オリエンテッド型
ファンネックス・アセット・マネジメント(日本)

ファンネックスは、日本株式に特化したブティック型の運用会社で、経験豊富で優秀なポートフォリオ・マネージャーと優れたアナリストからなるチームが運用を行います。運用プロセスは、市場の短期トレンドや将来中長期的に市場をけん引する投資テーマを分析し、詳細な企業リサーチを基に投資銘柄を選定します。

当資料には作成基準日現在採用の主な運用会社名が記載されており、当ファンドの運用会社構成は、ラッセル・インベストメントグループが行う運用会社調査に基づいた判断により変更されることがあります。

コメントは作成時点のものであり将来予告なく変更されることがあります。

また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。なお、市況の変動等により方針通りの運用が行われない場合があります。

7ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

三菱UFJ MV20 / MV40 / MV80
三菱UFJ MV20 / MV40 / MV80の主要投資対象である投資信託証券の運用会社リスト

三菱UFJ MV20 / MV40 / MV80の主要投資対象である投資信託証券を運用しているラッセル・インベストメント株式会社からのデータ・コメントを原則としてそのまま掲載しています。

ラッセル 外国株式ファンド (適格機関投資家限定)

ラッセル 外国株式ファンド (適格機関投資家限定)の運用はファミリーファンド方式で行い、下記のマザーファンドを主要投資対象とします。

<ラッセル 外国株式マザーファンド>

ラッセル 外国株式マザーファンドは、日本を除く世界先進各国の市場において取引されている株式を主要投資対象とし、安定的にベンチマーク(MSCI KO KUSA1(配当込み))を上回ることを目標として運用を行います。グロース型、バリュー型、マーケット・オリエンテッド型などの異なる運用スタイルを持つ運用会社を最適な割合で組み合わせ、超過収益の源泉や運用プロセスの分散を図りつつ、超過収益への貢献度が高い銘柄選択において、各運用会社の特性を最大に活かせるようファンドを運用します。

グロース型
マッキンリー・キャピタル・マネジメント(米国)

マッキンリーは、株価のモメンタム、企業収益の伸び、および収益面でのポジティブ・サプライズ(予想を上回る決算発表等)に注目する「グロース(成長)型運用」を行います。同社では、まず40,000以上の銘柄を対象に定量的な分析を行うことによって銘柄の絞り込みを行います。この結果に定性的な分析を加え、最終的には45 - 60銘柄程度から成るポートフォリオを構築します。

グロース型
マーシコ・キャピタル・マネジメント(米国)

マーシコは、トップダウン・アプローチとボトムアップ・アプローチを組み合わせた運用を行います。今後株価形成に影響を与えると考えられる市場のテーマおよびマクロ経済見通しをベースに、個別企業について面談を含む詳細な調査を行い、銘柄の絞り込みを行います。テーマやマクロ経済動向の観点を銘柄選択プロセスに織り込むことにより、多様な投資アイデアが生まれ、成長度の高い銘柄の発掘に繋がっています。

バリュー型
ハリス・アソシエイツ(米国)

ハリスは、定性および定量分析に基づいて割安な銘柄を発掘し、それらに長期的な観点から投資を行います。具体的には、今後収益を生み出すことが期待でき、かつ株主を意識した経営を行っている割安な銘柄を投資対象とします。ベンチマークをあまり意識しない運用を行う結果、同社の構築するポートフォリオの国別およびセクター別の配分は、ベンチマークから大きく乖離することもあります。1銘柄、1セクターへのアクティブベットの幅は厳格にコントロールされます。

マーケット・オリエンテッド型
エムエフエス・インスティテューショナル・アドバイザーズ(米国)

MFSはファンダメンタルズ分析に重きを置いた銘柄選択を行います。銘柄選択プロセスは、各国に配されたアナリストが各国の事情を加味した企業分析を行った後、当該アナリストから成るグローバル・セクター・チームにおいて国・地域を越えた同業他社との相対比較を行うことによって推奨銘柄を選定、これを基にポートフォリオ・マネージャーが相対的に魅力度の高い銘柄を選択するというものです。ポートフォリオは、緩やかなグロース傾向を持ち、企業規模は市場平均よりやや小型寄りとなります。

マーケット・オリエンテッド型
アローストリート・キャピタル(米国)

アローストリートはグローバル株式運用における豊富な経験を生かし、多元的なクオンツ型アプローチにより世界の株式市場に存在する魅力度の高い銘柄を探し出します。同社の主な超過収益の源泉は個別銘柄選択ですが、国やセクターの持つ影響も重視しており、国およびセクターで分けたバスケット毎に投資家行動などに起因する価格の歪みを捉えていきます。こうした「マトリックス・アプローチ」と呼ばれる手法は同社の調査・運用プロセスの特徴となっており、グローバル株式運用会社としての強みともなっています。

当資料には作成基準日現在採用の主な運用会社名が記載されており、当ファンドの運用会社構成は、ラッセル・インベストメントグループが行う運用会社調査に基づいた判断により変更されることがあります。

コメントは作成時点のものであり将来予告なく変更されることがあります。

また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。なお、市況の変動等により方針通りの運用が行われない場合があります。

7ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

三菱UFJ MV20 / MV40 / MV80

三菱UFJ MV20 / MV40 / MV80の主要投資対象である投資信託証券の運用会社リスト

三菱UFJ MV20 / MV40 / MV80の主要投資対象である投資信託証券を運用しているラッセル・インベストメント株式会社からのデータ・コメントを原則としてそのまま掲載しています。

ラッセル 日本債券ファンド (適格機関投資家限定)

ラッセル 日本債券ファンド (適格機関投資家限定)の運用はファミリーファンド方式で行い、下記のマザーファンドを主要投資対象とします。

<ラッセル 日本債券マザーファンド>

ラッセル 日本債券マザーファンドは、日本の市場において取引されている公社債を主要投資対象とし、安定的にベンチマーク(NOMURA - BPI総合指数)を上回ることを目標として運用を行います。複数の運用会社を採用することにより、金利予測、満期構成、債券種別選択、個別銘柄選択といった債券運用における超過収益の源泉や運用プロセスの分散を図り、リスクをコントロールしながら超過収益の獲得を目指します。

金利戦略型

ピー・エヌ・ピー・パリバ アセットマネジメント(日本)

ピー・エヌ・ピー・パリバは、グローバル債券運用で定評がある運用会社ですが、当ファンドでは、同グループの日本法人が、国債、地方債、政府保証債を中心に日本債券単独の運用を行います。ピー・エヌ・ピー・パリバの日本債券運用は、主な超過収益の源泉を、デュレーション(金利感応度)、イールドカーブ(利回り曲線)戦略等の金利戦略に求めます。

広範囲型

りそな銀行(日本)

りそな銀行はデュレーション(金利感応度)戦略、イールドカーブ(利回り曲線)戦略、債券種別選択、個別銘柄選択といった様々な分野で優れたスキルを有しています。金利戦略においては、国内のみならず、海外にも幅広い視野と分析能力を有し、マクロ経済から需給まで精緻な調査活動を行っています。クレジット戦略においても、トップダウン的な観点からの債券種別選択と徹底した企業の信用調査による個別銘柄選択とをバランスよく行います。

広範囲型

DIAMアセットマネジメント(日本)

DIAMは金利、クレジット/セクターの両戦略において、安定した超過収益の獲得を目指します。金利戦略部分では、投資家行動や需給分析に強みがあり、その分析能力を基に極めて短期的なポジションを機動的に数多く取ることで、超過収益の積み上げを図ります。クレジット/セクター戦略部分では、クレジットアナリストが定性、定量両面から精緻な信用力分析を行い、ポートフォリオ・マネージャーが個別銘柄選択を行います。また、投資ユニバースの拡充にも積極的です。

クレジット/セクター戦略型

住信アセットマネジメント(助言:住友信託銀行)(日本)

住信アセットは住友信託銀行の助言により運用します。当ファンドではクレジットに特化した運用を行い、債券種別選択と銘柄選択から超過収益の獲得を狙います。助言者の住友信託銀行は、質・量ともに充実したクレジットリサーチチームを有しており、定性・定量両面での優れた分析能力は効果的な債券種別選択・個別銘柄選択を可能としています。

収益源泉拡張型

ビムコ ジャパン(日本)

収益源泉拡張型とは、日本債券のインデックスをベンチマークとしながら、一部外国債券市場にも超過収益を求める運用手法です。為替ヘッジ等により外貨への感応度はほぼゼロに、金利感応度についてもその殆どが日本の金利となるようにポートフォリオはコントロールされます。ビムコ ジャパンは、モーゲージ債等の複雑な債券やデリバティブ等の運用に優れており、リスクを抑えつつ、幅広い戦略から収益を獲得することを得意としています。

当資料には作成基準日現在採用の主な運用会社名が記載されており、当ファンドの運用会社構成は、ラッセル・インベストメントグループが行う運用会社調査に基づいた判断により変更されることがあります。

コメントは作成時点のものであり将来予告なく変更されることがあります。

また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。なお、市況の変動等により方針通りの運用が行われない場合があります。

三菱UFJ MV20 / MV40 / MV80

三菱UFJ MV20 / MV40 / MV80の主要投資対象である投資信託証券の運用会社リスト

三菱UFJ MV20 / MV40 / MV80の主要投資対象である投資信託証券を運用しているラッセル・インベストメント株式会社からのデータ・コメントを原則としてそのまま掲載しています。

ラッセル 外国債券ファンド Aコース(為替ヘッジあり) / Bコース(為替ヘッジなし)(適格機関投資家限定)

ラッセル 外国債券ファンド Aコース(為替ヘッジあり) /
Bコース(為替ヘッジなし)(適格機関投資家限定)の運用はファミリーファンド方式で行い、
下記のマザーファンドを主要投資対象とします。

<ラッセル 外国債券マザーファンド>

ラッセル 外国債券マザーファンドは、日本を除く世界先進各国の市場において取引されている公社債を主要投資対象とし、安定的にベンチマーク(シティグループ世界国債インデックス(除く日本、円ベース))を上回ることを目標として運用を行います。当ファンドの大部分は国債や、高い格付けの債券に投資されます。複数の運用会社を採用することにより、金利予測、満期構成、債券種別選択、国別配分、通貨配分、個別銘柄選択といった債券運用における超過収益の源泉や運用プロセスの分散を図り、リスクをコントロールしながら超過収益の獲得を目指します。

ベビーファンドのベンチマークはそれぞれ下記の通りです。

Aコース(為替ヘッジあり): シティグループ世界国債インデックス(除く日本、円ヘッジ・円ベース)

Bコース(為替ヘッジなし): シティグループ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

Aコースは原則として為替ヘッジ(運用会社: フランク・ラッセル・カンパニー)を行い、
為替変動リスクの低減を図ります。Bコースは原則として為替ヘッジを行いません。

マクロ・バリュー型

コルチェスター・グローバル・インベスターズ(英国)

コルチェスターの運用スタイルは、各国の経済情勢や財政の健全性などのマクロ分析を通じて、相対的に高いリターンが見込める、割安感の強い国の債券および通貨を発掘するというものです。割安であるか否かの判断は、実質金利や購買力平価などを予測する同社独自の定量モデルを用いて行われ、この結果に定性判断を加味することにより国別および通貨別の配分が決定されます。

一般債重視型

ビムコ(米国)

ビムコの外国債券運用の特徴は、多様な収益源泉に幅広く分散投資を行うことです。国債以外の債券(一般債)への投資を得意としており、モーゲージ証券の運用にはとりわけ優れています。その一方で通貨変動からはあまり大きな影響を受けないような運用を行います。

当資料には作成基準日現在採用の主な運用会社名が記載されており、当ファンドの運用会社構成は、ラッセル・インベストメントグループが行う運用会社調査に基づいた判断により変更されることがあります。

コメントは作成時点のものであり将来予告なく変更されることがあります。

また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。なお、市況の変動等により方針通りの運用が行われない場合があります。

7ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

三菱UFJ MV20 / MV40 / MV80



追加型投信 / 内外 / 資産複合

ファンドの特色

日本を含む世界各国の株式および公社債(これらを主要投資対象とするマザーファンド受益証券を含みます。)を主要投資対象とする投資信託証券に投資し、リスクの軽減に努めつつ中長期的に着実な成長をめざします。

商品概要

信託期間 : 2000年12月20日から無期限
 ただし、各ファンドの残存口数が10億口を下回った場合等には、信託期間の途中で信託を終了させることがあります。
 決算日 : 原則として、毎年12月12日(休業日の場合は翌営業日)
 ベンチマーク : 以下の指数をそれぞれの割合にて合成した指数です。

	MV20	MV40	MV80
配当込みTOPIX	15%	30%	55%
MSCIコクサイインデックス(除く日本 円換算ベース)	5%	10%	25%
NOMURA-BPI総合指数(短期金融資産(有担保コール翌日物)1%を含む)	40%	30%	10%
シティグループ世界国債インデックス(除く日本、円ヘッジ・円ベース)	35%	25%	5%
シティグループ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)	5%	5%	5%

お買付け申込み : 原則として、いつでもお買付け申込み、換金のお申込みができます。

中途換金

申込み価額 : 申込受付日の翌営業日の基準価額

【お客さまには以下の費用をご負担いただきます。】

申込時に直接ご負担いただく費用

申込手数料 : 申込価額×2.1%(税抜2%)を上限として販売会社が定める手数料率

換金時に直接ご負担いただく費用

信託財産留保額 : 換金申込日の翌営業日の基準価額に0.1%を乗じた額

保有期間中に間接的にご負担いただく費用

信託報酬 : 純資産総額に対して、それぞれの年率程度(投資対象とする投資信託証券の信託報酬を含んだ実質的な信託報酬率です。)

MV20	MV40	MV80
1.533%(税抜1.46%)	1.6905%(税抜1.61%)	2.0055%(税抜1.91%)

その他費用(*) : 売買委託手数料、組入資産の保管等に要する諸費用、先物取引・オプション取引等に要する費用等

(*)「その他費用」については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。

なお、お客さまにご負担いただく費用等の合計額については、お申込金額や保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

(課税関係)個人受益者については、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の価額から取得費を控除した利益に対して課税されます。

なお、法人の課税は異なります。また、税法が改正された場合等には、変更となる場合があります。

詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

当ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。

当資料のご利用にあたっての注意事項等

各ファンドは、主に株式・公社債を実質的な投資対象としますので、株式市場の相場変動により組入株式の価格が下落すること、金利変動により組入公社債の価格が下落すること、組入株式・公社債の発行者の倒産や財務状況の悪化等の影響により組入株式・公社債の価格が下落すること等で当ファンドの基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、実質的に外貨建資産に投資しますので、為替の変動により損失を被ることがあります。したがって、投資家のみならず投資元金が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。各ファンドの主な投資リスクとして、組入株式・公社債の価格変動リスクや為替変動リスク、信用リスク、流動性リスク等があります。詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「基本情報 リスク」をご覧ください。

投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、貯金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。/ 金融商品取引業者以外の金融機関は、投資者保護基金に加入していません。/ 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。/ 投資信託の取得のお申込みを行う場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。/ 投資信託は、書面による契約の解除(クーリング・オフ)の適用はありません。/ 運用により信託財産に生じた損益はすべて投資家のみならず帰属します。

当資料は、当ファンドの運用状況をお知らせするために三菱UFJ投信が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。/ 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。/ 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。/ 当資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。

市況動向および資金動向等により、ファンドの基本方針通りの運用が行えない場合があります。

(お申込みの際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。)

設定・運用 ... 三菱UFJ投信株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
 加入協会 (社)投資信託協会
 (社)日本証券投資顧問業協会

<お客様専用フリーダイヤル> 0120-151034(毎営業日の9:00~17:00)
 <オフィシャルサイト> <http://www.am.mufj.jp/>
 基準価額・分配金をメール配信 <http://k.m.muam.jp/a/1/3>
 (*メール配信対象外ファンドもあります。)

当ファンドにかかるリスクについて

当ファンドへの投資にあたっては、主に以下のリスクを伴います。このため、お申込みの際は、当ファンドのリスクを認識・検討し、慎重に投資のご判断を行っていただく必要があります。

<p>市場リスク</p>	<p>(価格変動リスク) 当ファンドは、株式や公社債を実質的な主要投資対象とし、合成ベンチマークを上回る投資成果をめざしていることから、株式や公社債の投資に係る価格変動リスクを伴います。一般に、株式の価格は個々の企業の活動や業績、市場・経済の状況等を反映して変動し、また、公社債の価格は市場金利の変動等を受けて変動するため、当ファンドはその影響を受け株式や公社債の価格・合成ベンチマークが下落した場合には基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。 (為替変動リスク) 実質的な主要投資対象である海外の株式や公社債は外貨建資産ですので、為替変動の影響を受けます。そのため、為替相場が円高方向に進んだ場合には、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。 なお、「ラッセル 外国債券ファンド Aコース (為替ヘッジあり)(適格機関投資家限定)」の主要投資対象である海外の公社債は外貨建資産ですが、当ファンドでは原則として為替ヘッジを行うことで為替変動リスクの低減を図ります。しかし、為替ヘッジにより、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。そのため、為替相場の変動によっては、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。 なお、為替ヘッジを行う場合で円金利がヘッジ対象通貨建の金利より低いときには、これらの金利差相当分がヘッジコストとなります。</p>
<p>信用リスク</p>	<p>信用リスクとは、有価証券等の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等に、当該有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または払いや償還金の支払いが滞る等の債務が不履行となること等をいいます。当ファンドは、信用リスクを伴い、その影響を受けますので、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。</p>
<p>流動性リスク</p>	<p>有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない、または取引が不可能となるリスクのことを流動性リスクといい、当ファンドはそのリスクを伴います。例えば、組み入れている株式や公社債の売却を十分な流動性の下で行えないときは、市場実勢から期待される価格で売却できない可能性があります。この場合、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。</p>
<p>留意事項</p>	<p>当ファンドは、一定の運用成果を保証するものではありません。</p>

